

平成10年度

部報

—馬場移転記念号—



第44号

北海道大学馬術部



新厩舎全景

左が部室棟、2階がレセプションルーム 1階には部室および男女の部屋がある。右は厩舎防火の点から別棟となる。半沢杯において馬場開きがおこなわれた。

目次

1. 21世紀の北大馬術部のハードとソフト 馬術部部长 市川 瑞彦
2. 現在のクラブ状況
3. 戦績報告
4. 馬場・厩舎移転の経過報告
5. 新厩舎について
6. 旧馬場と旧厩舎にありがとう 昭和45年度卒 今井 敏郎
7. ポプラ並木の頃 昭和39年度主将 瀧澤南海雄
8. 馬匹紹介
9. 後援会より
10. 特集
11. 部員紹介
12. 写真
13. 編集後記

21 世紀の北大馬術部のハードとソフト

北大馬術部部长 市川 瑞彦

20 世紀の最後の年である 1999 年春に北大馬場・部室・厩舎・乾草庫の全施設が新しくなった。

その経過については別稿をご覧いただきたいが、この過程でお世話になったり、寄付をいただいたOB、後援会員、他大学のOBの皆さんにお礼を申し上げます。

我が部が自馬を繁盛して以来、ボブラ並木横の第一農場内、北 18 条とこれで 3 つ目の馬場であるが、移転の度に着実に建物・面積とも充実してきているのは事実であろう。キャンパスの北西の端であるため通学上の問題とか、風が強いとか不満な点はあるが、大都市の中央駅から 2km 圏内にこれだけの面積の施設を持ったのだからぜいたくな不満というべきであろう。正確に比較する材料を持たないが、大学の馬術部の施設としては一級であることは間違いないであろうから、21 世紀の馬術部の活動にとってハードの面は整ったということになる。

したがって、残る問題はソフトの面、つまり活動の内容ということになる。大学の運動部である以上戦績が重要であることは勿論であるが、同時に部活動が大学生として獲得すべき内容の達成の重大な阻害要因であればその存在意義を失う。自馬を 14 頭も繁盛しその大半をアルバイトに頼らざるを得ない現状では、学業と部活動の両立がそんなに簡単なことだとは決していわないが、一方学生馬術は純粋なアマチュアで限界をもつことも明らかであろう。何年も留年したりして、プロでもなしアマチュアでもないというような状態は避けなければならない。長い目で見てみると、学業と戦績は相関などはなく、むしろ正の相関があると思うがいかがであろうか。このことは部活動と学業の両立を目指す精神面での緊張感・充実感がいかに全体によい結果をもたらすかということを物語っているように思う。

馬術部で活動するということは、部員諸君には釈迦に説法だろうが、動物とのふれあいを通じて生と死を実感する、他人と会話ができる、肉体労働など共同行動ができる、具体的行動を通じて目前の問題解決をはかる、といった現代の若者が獲得すべきといわれる課題を達成できる内容を含んでいる。馬術部に入って活動することはこれからの時代の指導者に要求されている活動を実践しているという意味で、エリートコースを歩んでいることになる。これからの社会は馬術部の活動をやっているような学生を必要としていることは間違いない。しかし、その選抜の第一段階で参加させてもらえないようでは、すべては水泡に帰してしまう。改善のためには、新入部員には部活動をやりながら単位をきちんと取得していくノウハウや注意点のガイダンスを行うとか、試験期間前の行事を見直し整理するとか、何らかの工夫が必要だろう。もし、どうしても工夫の余地がないのなら、部活動の内容の方を変えなければならない。この点を真剣に検討すべき時期がきているのではないだろうか。これからの日本はどのように変わっていくのであろうか。乗馬がますます普及し、アニマルセラピーの研究や施設が増え、大学の中でも認知されていくのだろうか。

その時大学の馬術部の位置付けがどうなっていくのであろうか。本当のエリートになろうとするなら馬術部に入らなければだめだということが、定着するように部員諸君にも頑張ってもらわなければならない。(99. 4. 20.)

現在のクラブ状況

主将

昨年の全日には二回走行に出場した北獅ただ一頭つれていけず、大変悔しい思いをしました。今年は北日がノーザンホースパークで開かれるということもあって、二回走行、総合ともに団体で出場できるように頑張っています。しかし馬の層、人の層も薄く選手を決定する段階で悩んでいるのが現状です。馬に関しては新馬数頭を離厩し即戦力となる馬を数頭入厩させてある程度補強してきました。その結果北日で権利に何とか届く可能性のある馬が二走で6頭、総合でも6頭となりました。後は人の技術向上だと思われます。現役の技術向上に関して欠けているのは

- ①下級生のころからの一貫された教育
- ②互いに高め合う向上心
- ①自分がやらなければならないという強い意志
- ②はっきりとした目的意識

この4つが主だと思います。北大馬術部のウィークポイントだいたい何かわかっているの
で、後は北日までどれだけ克服できるかで成績は決まってくると思います。後数ヶ月全力で頑張ります。

副将

9月に代が替わり副将を担当することになりました。改めて北大馬術部の馬匹を見ると、かつて活躍していた馬たちは高齢のために離厩してしまい、戦力としてはまだ物足りない馬匹が少し多くなっている気がします。そこで、最近では即戦力として使えるような馬が求められるようになり、馬の出入りがかなり激しくなっています。

目標は「北日学で二走、総合において団体の権利を獲得すること」ですが、まだまだ部員の技術不足は否めず一人一人自分の何が物足りないのかを見つめること、またお互いに何が足りないのかを見つめること、またお互いに協力していきながら、部員全体の技術の向上をはからなければならないと思います。

また、99年度の北日学はノーザンホースパークで行われ北大・酪農が主幹として運営する大会であります。これはわれわれ部員にとって初めての経験ですが部員1人1人力をあわせぜひとこの大会を成功させたいと思っています。

もうひとつ、99年度からは新しい厩舎に移転して活動するわけですが、おそらくその後数十年は使われることになるので、移転に際しては、十分に検討し移転後は大切に使用して後輩たちに伝えていこうと思います。何かと行事の多い1年になると思いますが部員

全員で目標を達成できるように、そしてなによりも馬にも人にも怪我など絶対させないように頑張りたいと思います。

主務

今年は例年通りの活動に加えて、馬場の移転と北日学の主管という大きなイベントがあり、忙しい年となりそうです。主務の仕事は事務関係ばかりになりがちですが、日ごろから私たちの身になって考えてくださっている学生部、大会などで交流のある他団体の方と関わる機会が最も多い役職でもあるので、関係を維持発展できるようにしたいと思っています。また現役部員にとっては普段の活動以外の面で負担のかかる年になりそうですが、主務の立場から可能な範囲で負担を軽減できればと思っています。部の運営を円滑に行い、なおかつ自分自身にとっても悔いのない1年にできるように、心がけていきたいと思っています。

馬匹

今の部の環境面は浅野さんがある程度整えてくれた。たとえば三角地に放牧中馬が危ないところに入り込まないように、パイプで新しく埒を作ったり、放馬止めロープの徹底、セン通予防の飼料の改善。これを維持しさらに改善していかなければならない。98年度は怪我馬が多く治療ばかりで獣医にお世話になることが多かった。代が変わって、絶対に治療より予防の方が多くなるように心がけていかなければならない。馬場移転の前後は回りの環境が変わるので、馬の精神面にも気を使って、微妙な変化にも気づいてやらなければならぬ。すべてを見きれぬわけではないので、注意を促し、おかしいことがあれば言うてくれるようにしなければいけない。とにかく治療よりも予防、早期発見と早期治療、99年こそ万全の状態以北日を迎えたい。

飼料

現在の馬術部の飼料報告を述べさせていただきます。まず始めに馬に与えている飼料内容を説明します。現在使用している主な飼料はえん麦、ふすま、ヘイキューブ、塩、リンカルの5種類であり、毎朝運動している馬のおおよその給与量は、えん麦2リットル、ふすま1リットル、ヘイキューブ1.5リットル、塩、リンカル大さじ二杯程度でこれを朝昼夕の3回に分けて与えています。ヘイキューブは昨年八月まではよくセン痛を併発する北獅号、北蘭号のみヘイキューブをお湯でふやかした練り飼いをあたえていましたが、9月以降は全馬練り飼いを実行するようになりました。これにより、体調不良になる馬も以前に比べかなり少なくなったと思います。また乾草は飼い付けと同時に、各馬約1kgぐらいを

1日3回、そして夜飼い当番の人がさらに1kgの合わせて4kgを目安に与えています。

次に乾草や敷藁の補充先を説明します。これらは主に長岡さんという畜大馬術部OBの方が経営している牧場からいただいています。春から秋にかけて長岡さんの牧場で、ビートや小麦の農作業の手伝い、また牛舎の手伝いなど、そこで僕たちがバイトをし、その代わりとして乾草、ロールの稲わらをいただくという形を現在実行しています。また馬運車を貸していただいたり、牧場に生えている青草をいただいたり、あらゆる事でお世話になっています。また、北大農場の方からも乾草や稲わらを供給しています。稲わらに関しては農場の方が近くの農家からロールの稲わらをわざわざもらってくださるという気配りをさせていただいたり、とても農場の方から面倒をみていただいています。

このようにして現在は何とか飼料を確保していますが、馬場の移転後は1つの大きな問題が生じると考えられます。それは青草が刈れなくなってしまうということです。いままでは馬場が大学の近くにあったので、構内や農場で刈った草は自転車で持ち運びができましたが移転後はそうすることが困難になると考えられます。そしてもし青草を馬に与えるということができなかった場合、次に乾草の供給量の問題が生じます。今までは長岡さんや農場からいただいた乾草で何とか供給していましたが、青草を与えない場合、春と夏も乾草を与えると言う形をとらなくてはなりません。そうすると、どうしても乾草を業者から買い上げる以外に方法がないと思います。

馬場が移転したら様々な問題が生じると思いますが、農場や長岡さんとの関係をしっかり築いていき、これからも飼料としての役職をしっかりと果たして行こうと思いますのでOBの方にもご支援のほどよろしくお願いします。

戦歴

○対東北大学定期戦

出場選手 畔柳 森田 濱田
優勝北大

半沢杯 馬場馬術第2課目

順位	選手	乗馬	得点率
2	乗次	北蘭	52.8
5	矢野	北凌	48.8
7	金丸	北彪	48.4
10	須田	北牙	47.6
13	大崎	北鈴	46.0
15	森田	北彪	44.4
16	寺坂	北帝	44.3
17	中田	北優	43.7
18	浅野	北優	43.3
21	濱田	北優	41.8

馬場馬術第3課目

順位	選手	乗馬	得点率
3	鈴木	北凌	52.5
7	角堂	北牙	48.3
14	栗原	北燕	41.4

複合馬術競技

順位	選手	乗馬	総減点
3	小谷	北獅	76.4
4	川崎	北祥	82.3
6	田中	北旋風	108.2

中障害飛越競技

順位	選手	乗馬	減点	J. O
2	角堂	北牙	0.0	0
3	鶴見	北祥	0.0	
4	小谷	北獅	4.0	
7	川崎	北祥	8.0	
8	田中	北旋風	8.0	

小障害飛越競技

順位	選手	乗馬	減点	J. O
9	乗次	北蘭	0.0	3
11	尾崎	北旋風	0.0	経路E
18	鈴木	北凌	13.0	
	寺坂	北燕	3反E	

新人新馬障害飛越競技

順位	選手	乗馬	減点
5	土肥	北燕	0.0
6	栗原	北燕	0.0
8	徳永	北祥	0.0
10	長田	北獅	0.0
11	金丸	北彪	0.0
12	田中	北蒼	0.0
13	寺田	北獅	0.0
14	小谷	北彪	0.0
15	田中	ユーフォー	0.0
s	角堂	北蒼	3.0
29	中村	北神威	4.0
37	池田	北彪	6.0

北海道馬場馬術大会
第2課目A班

B班

順位	選手	乗馬	得点率
3	寺坂	北帝	53.0
5	大崎	北鈴	51.3
9	乗次	北蘭	47.9
11	浅野	北優	44.4
順位	選手	乗馬	得点率
5	井口	北燕	45.2
6	濱田	北彪	45.2
7	金丸	北蒼	44.9
8	川崎	北優	42.4
10	竹本	北優	33.8

3課目A班

順位	選手	乗馬	得点率
6	小谷	北獅	50.7
10	角堂	北蒼	48.0
12	寺坂	北帝	45.2
14	寺田	北燕	43.3
15	栗原	北燕	43.3
17	乗次	北蘭	42.5

ツースター総合馬術競技

順位	選手	乗馬	得点率
6	小谷	北獅	48.9
8	角堂	北蒼	46.9
12	小谷	北彪	44.6

三大学定期戦(6月14日)

選手	井口	長田	森田
----	----	----	----

優勝	畜大
2	北大
3	酪農

春季自馬馬術大会(6月19～21)

2課目

順位	選手	乗馬	得点率
7	鈴木	北優	48.7
11	森田	北旋風	47.5
14	浅野	北優	43.8
15	浜田	北優	43.7
16	尾崎	北蒼	43.3

3課目

6	小谷	北獅	51.2
---	----	----	------

ツースター

順位	選手	乗馬	得点率
10	角堂	北蒼	47.3
11	寺坂	北帝	46.3
12	田中	北旋風	45.7
13	小谷	北彪	45.5
17	川崎	北祥	43.0
18	大崎	北鈴	38.8

L級障害飛越競技

順位	選手	乗馬	減点	J. O
11	小谷	北彪	0	経路E
16	池田	北彪	3.8	1
23	川崎	北祥	4.0	

MC

28	田中	北旋風	12
32	角堂	北牙	19
	小谷	北獅	3反E

新人新馬の部

順位	選手	乗馬	減点
8	角堂	北蒼	3
12	寺坂	北帝	12
	中村	北神威	1分E

L級S&H

順位	選手	乗馬	時間
16	川崎	北祥	98.02
20	角堂	北牙	106.1

LA決勝

11	川崎	北祥	8
----	----	----	---

北海道馬術大会
2課目

順位	選手	乗馬	得点率
6	栗原	北優	47.3
8	浅野	北優	47.0
12	畔柳	北優	44.6
13	金丸	北神威	39.9
14	中村	北神威	39.9

内国産国産MC

順位	選手	乗馬	減点
9	角堂	北牙	14.75
10	川崎	北祥	24.0

内国産馬S & HC

順位	選手	乗馬	時間
9	角堂	北牙	96.81
10	川崎	北祥	98.12

北日本学生馬術選手権
男子予選

順位	選手	乗馬	
2	小谷	クリストファー	386.5
3	角堂	クリストファー	347.5

準決勝

3	小谷	ジェネシス	370.5
---	----	-------	-------

女子予選

1	乗次	ジェネシス	333.5
1	栗原	オリエンタラン	112.0

準決勝

2	栗原	クリストファー	332.5
3	乗次	クリストファー	323.5

決勝

4	栗原	キプロス	149.0
---	----	------	-------

北海道体育大会・国体
LA

順位	選手	乗馬	減点
19	川崎	北凌	15.5

3課目A

順位	選手	乗馬	得点率
14	尾崎	北優	43.4
15	長田	北優	39.4

3課目B

順位	選手	乗馬	得点率
13	川崎	北凌	46.3
15	井口	北優	40.4

秋自馬馬術大会

2課目A

順位	選手	乗馬	得点率
8	尾崎	北旋風	49.5
12	小谷	北蒼	48.3
17	長田	北鈴	45.8

2課目B

10	栗原	北蒼	49.2
14	川崎	北祥	46.8
16	井口	北旋風	45.2
19	矢野	北優	43.5
21	土肥	北優	41.8

LB

順位	選手	乗馬	減点
9	角堂	北凌	0.50
10	森田	北彪	0.75
12	小谷	北蒼	1.25
21	川崎	北彪	4.00
26	栗原	北蒼	4.50
28	濱田	北凌	4.75
30	池田	北彪	6.25
33	大崎	北鈴	9.00
41	長田	北鈴	17.25

LA

5	川崎	北祥	4.0
7	金丸	北牙	5.0
14	濱田	北凌	12.75

MC

順位	選手	乗馬	減点
3	金丸	北牙	0.0
4	小谷	北獅	0.0
7	尾崎	北旋風	4.0
8	濱田	北凌	6.0
9	大崎	北獅	8.0

LA

2	小谷	北蒼	0.0
3	栗原	北蒼	0.0

新人新馬

	選手	乗馬	減点
	濱田	北牙	0.0
	森田	北牙	スタート前E
	徳永	北旋風	経路E
	井口	北牙	スタート前E

ジムカーナー

2	沢木	北凌	0.0
4	小野	北優	0.0
8	沖原	北優	0.0
13	川辺	北旋風	2.0
14	土肥	北優	2.0

北日本学生馬術大会
2回走行

順位	選手	乗馬	所属	1走目減点	2走目減点	J. O
1	浦崎	柏嶺	畜産	0	0	0
2	小守	緑天鳳	酪農	0	0	8
3	高橋	グレースカップ	東北	8	0	
4	小谷	北獅	北大	4	4	
5	毛利	柏雲	畜産	4	4	
6	山田	ダイキテンペスト	畜産	4	8	
7	工藤	スパージャジ	酪農	9	4	
8	加藤	柏朱鶴	畜産	0	16	
9	鎌田	ノーバディーエルス	畜産	8	12	
11	田中	北旋風	北大	16.25	16	
13	川崎	北祥	北大	16	20	
	角堂	北牙	北大	53.5	40	

賞典馬場馬術

順位	選手	乗馬	所属	得点率
1	上野	リブラ	岩大	50.8
2	海川	ハミングダンス	酪農	50.5
3	加藤	キプロス	岩大	48.6

総合

順位	選手	乗馬	所属	調教	耐久	余力
1	山田	柏明	畜産	48.3	0	0
2	加藤	柏朱鶴	畜産	108	0	0
3	小守	緑天鳳	酪農	113.2	0	0
4	工藤	スパージャジ	酪農	114.7	4.4	0
5	鎌田	ノーバディーエルス	畜産	119.8	0	0
6	湯口	柏海	畜産	124.3	0	0
12	田中	北旋風	北大	132.2	21.6	10.75
16	大崎	北鈴	北大	128.3	162.4	15
	寺坂	北帝	北大		5反E	
	小谷	北彪	北大		5反E	
	角堂	北凌	北大		5反E	
	川崎	北祥	北大		5反E	
	小谷	北蒼	北大		5反E	

MC

順位	選手	乗馬	減点
5	金丸	北牙	0
6	川崎	北牙	0
	角堂	北牙	5.75
	角堂	北凌	E

3課目

順位	選手	乗馬	得点率
13	乗次	北優	46.8
26	浅野	北優	42.9

新人新馬

順位	選手	乗馬	減点
13	濱田	北凌	3
16	土肥	北凌	5.5

全日本学生馬術大会
2回走行

順位	選手	乗馬	1回目	2回目
55	小谷	北獅	32	36

馬場・厩舎移転の経過報告

馬術部部長 市川 瑞彦

1. はじめに

北大札幌キャンパスの北西の角(北24条西13丁目)に位置する新しい馬場及び厩舎・飼料庫・堆肥置場の施設群は、1999年3月1日に札幌市役所から北大に完成引渡しとなりました。引き続き、引越し作業が行われ3月以来新馬場で活動しております。現在は、積雪のためやり残しとなっていた最終的な整地作業・芝張り・芝の種まきなどの土木工事を終え最終的引渡しを残すのみとなっております。キャンパスの北西のはずれといっても札幌の中心部に近い一等地であることには変わりありません。

この馬場は、我が北大馬術部創立以来、初代のボブラ並木横の旧第一農場内馬場、二代目の北18条旧第二農場の牡牛パドック跡、について三代目の馬場となった。もっとも、初代の馬場は、「北大馬術部創立40年記念写真集」の中で第4代部長太秦康光先生の書かれた文章によると、農学部畜産学科の必修科目「乗馬及び馬匹調教実習」の実習馬場であったとのことであるから、自前の馬場としては二代目というべきかもしれない。

二代目の「北18条馬場」と厩舎が、その位置と内容に確定するまでの紆余曲折と並々ならぬご苦勞の様子は、「40年記念写真集」に当時の第6代部長半沢道郎先生が「自馬繁養と馬場、厩舎の新築移転問題」と題する文の中で詳しく述べられている。残念ながら、先生は倒れられた後言葉がご不自由なので、私は現在先生と意思疎通を十分することができませんが、去る5月3-4日に行われた「半沢杯馬術大会」の折には体調が十分でないにもかかわらずご出席下さり、その帰り際付き添われたご家族の心配をよそに新しい施設に関心を示され私の説明にうなずかれておられたのが印象的でした。おそらく先生は、新しい「北24条馬場・厩舎」をご覧になりながら、約30年ほど前ご苦勞の未完成された「北18条馬場・厩舎」がなくなってしまったことをダブらせておられたのではなかろうかと推察します。

幸い北大の関係者、馬術関係者、OBの皆さんが、「馬場が広く、施設が立派」と云ってくださるので、これからおそらく30年ぐらいの間馬術部の活動の場を決める責任を負っていた者として、追い出されることなくキャンパス内に馬場を確保できたことに先ずは安堵しているところです。半沢先生はじめ先輩諸兄のご苦勞や築かれた実績の上に、我々が自馬を繁養して以来、着実に馬場・厩舎はその建物・面積とも充実してきていることを皆さんとともに喜びたいと思います。

2. 「北18条道路問題」の経緯

北18条馬場が接していた北18条道路については、昭和54年、昭和56年の二回にわたり、札幌市から道路整備計画(北18条通りを環状線の一部として拡幅・整備する計画)を推進したい旨の申し入れがありました。これに対し北大では評議会決定として「大学の主要な教育・研究施設、文化財などが集中立地するキャンパスの真中を幹線道路が通過するものであるため、本学の教育・研究及び管理運営に及ぼす影響があまりにも大きく、大学としてこれを容認することはできない」と回答をし、「地表で通過交通を通すことは

認められない」など8条件を提示してきました。

平成4年に札幌市から再び協議の申し入れがあり、従来の計画案を再検討し「大学と都市計画の整合性を考慮した」とする新たな計画案が提示された。北大としても「北18条道路専門委員会」を組織し、昭和56年に評議会決定した「8条件」をクリアしているかどうかなどについて検討を重ねてきました。その結果、平成7年11月、「北18条道路専門委員会」は、札幌市による環境アセスメントを経て、新しい北18条道路整備計画案は「8条件」をクリアしており、教育・研究環境が現状よりも悪化することなく改善されるところが大きいと考えられるので、この計画案を容認し前向きに検討することを答申した。この答申が最終的に評議会承認されたことにより計画が動き出し、馬術部が計画の「支障物件」となり移転問題が浮上したわけである。

3. 「馬場・厩舎移転」の経緯

a) 平成8年以前

前述のように公式的には、平成7年11月の「北18条道路専門委員会」の答申が出てから移転問題が動き出したことになるのであろうが、実際には少なくともそれをさかのぼること2年半ほど前にはすでに動き出していることがわかる。後の経過と関係するので引用すると、前部長の斎藤善一先生から引き継いだ文書の中に、斎藤先生が当時の深沢和三学生部長に出した「市道拡幅による馬場削減の件」と題する文書の中に、

1) 現在の総面積、設備が確保され、整地が十分であれば、キャンパス内のどこに移転しても構わない。20m×60mの馬場馬術用の馬場2面とそれへのアプローチ部分を含め60m×80mの平坦部分を馬場内に確保する必要がある。

2) 移転しないで現地に留まるとすれば、(中略)削られた面積と同等の部分を現厩舎西側(モデルバーン敷地)あるいは現18条通り部分(トンネル上)に確保していただきたい。(後略)

とある。またその基になったと思われる鉛筆書きのメモの中に「北24条側であってもよい」との記述がみられるので、当初から北24条側も含めキャンパス内ならどこにでも移転する決意と、60m×80mの平坦部分を馬場内に確保するという目標がみてとれる。この「60m×80mの馬場の確保」は、私も当然と思っていたが、歴史的に悲願ともいえるべきことかもしれないものであることが後になってわかった。それは、前述の半沢先生の文章中に、約60m×80mの馬場が一旦「北18条旧第二農場の牡牛パドック跡」に確保された後で厩舎の建築場所がなかなか決まらず、紆余曲折の末に本来建築物は建てない条件になっていた馬場用地の一部を割いて厩舎を建てざるを得なくなり、その結果60m×65mに馬場が縮小させられてしまった経緯が詳細に書かれていたからである。この点は、さぞかしご無念であっただろうと推察します。

b) 平成8年

さて、「北18条道路専門委員会」の答申が出てすぐ後、平成7年の暮れ頃から学務部(旧学生部)学生課から移転先の面積に関して要望を出すよう依頼があり、年明け早々に要望書を提出した。このときの内容は、現状の面積を基礎としたもので、現状を大きく上

回るものではなかった。それは、前部長の斎藤先生から「火事場泥棒のようなことはしないように」とくぎをさされていたからでもある。しかし、「60m×80mの馬場の確保」（馬場競技の審判席のスペース、入場前の運動スペースを考慮して後に80mから90mへ変更）は文書に入っていた。

2月19日には副学長、学生課長以下学務部と馬術部の懇談の機会があり、副学長から「北18条道路問題」の経過と現状について説明があった。馬術部からは移転はやむをえないと考えていること、先に出した要望書の面積は現状を基本とした最小限のものであること、その他考慮すべき点について話をした。このとき副学長は、キャンパスマスタープランに馬術部の場所を含める、従って今後20～30年は変わらないので、実現するかどうかは別にして

、具体的要望や案はどんどん出して夢のあるものにしてほしいと言われた。キャンパスマスタープランとは、北大のキャンパスを全体としてどのように使っていくか長期的な計画を策定しようとするもので、全学的な委員会ができていた（後に馬場移転とこのキャンパスマスタープランとの関係が問題を複雑にすることになる）。

2月29日には、移転先には、部員の活動、通学の便、馬の治療、不整地や環境の利用などの点から、第二畜産部がそれに隣接する地域を希望する旨の要望を副学長に出した。馬術部としてはこれまでキャンパス内ならどこでも移転すると言っているが、それから時間も経っているし、要望が通ればそれにこしたことはないと考えたからである。

6月7日、学生課から北18条道路拡幅で削られた（1,900m²）後の現在地で活動するとしたら厩舎をどこに建て、他の建物をどこに配置するか検討してほしい旨要請があった。削られた跡地において活動していくことは極めて困難で移転の方向で考えたい旨対応してきたが、6月20日頃学生課長、同補佐に直接回答した。この席で、先に出した要望にもとづく馬場・厩舎のレイアウトを提出してほしい旨要請された。この頃は学生課でも、文部省を通じて資料を集められ、理想的な面積として80m×140mの馬場を考えるなど我々を喜ばせた。また学生課では帯広畜大の馬場・施設の図面や、ノーザンホースパークに視察に行くなど好意的・積極的に考えていただいたように思う。

8月14日施設部が現有スペースに基づきレイアウトしなおすように要求している旨、学生課を通じて連絡があった。「移転補償」は現状に対する補償であるため拡大したスペースを基にしては交渉ができないとの趣旨であった。これは突然の方向転換であった。ここで困ったのは、「60m×90mの馬場」を確保しようとすれば、パドックのスペースを捻出できないことであった。そこで、8月19日、学生課長補佐の方に依頼して同席の上、施設部企画課長以下3名の担当者と面談し、最終的に幅10mのパドック分（830m²）の割増を認めてもらい、これを「現有スペースにもとづくレイアウト案」として提出した。

この後しばらくの間表立って何の連絡もなく推移したが、バックグラウンドでは少し遡る頃から具体的かつ重要な変化があったようである。キャンパスマスタープランの確定である。キャンパスマスタープラン委員会のゾーニング計画（資料1、5月15日）の図では、北24条沿いに東西に長さ約230m、南北に幅100mの領域に「馬事公苑」の名が見られる（10月のバージョンでは約140m×100mに変更されている）。私自身はこの件について承知していないが、上記委員会で議論され考えられていたのであろう。11月25日の部局長等からなる全学施設計画委員会では、当面の計画とマスタープランは分けて考えることが議論されたという。このキャンパスマスタープランは、明けて1月29日の評議会で承認された。

移転先については、側聞するところでは、遡る12月18日に副学長と農場の間で話し合いがもたれたそうである。農場側からは、第二農場が将来的に他所に移転することについてはやむをえないと考えているが、キャンパスマスタープランの馬事公苑への馬術部の移転は困る、農場の移転までの間そこを使いたいと主張し、代替地の提案もあったようである。3ヶ月後の明けて3月19日には、移転先について施設部、学務部、農場、馬術部で話し合いがもたれたが、農場サイドは「30名の学生の課外活動と、農学の研究・教育とどっちが大事だ」と繰り返し主張した。しかし、農場は方向性としては第二農場を明け渡すことを承諾していることから、この頃には移転先については事実上確定していた。即ち、1) 移転先は第二農場北西の角、2) 敷地は北24条に沿って東西114m、南北174m、3) 西側及び北側に20mの緩衝帯を設けること。

この間の事情は、馬術部が参加できない全学会議で決定されてきたことから経過を正確に把握できない面があるが、およそ次のようなものと思われる。馬術部の移転場所やスペースは、問題をどう見るかで、まるで異なってくるのである。キャンパスマスタープランの中で長期的なスケールで考えると、現有スペースに縛られる理由はないので、夢のあるプランを議論することができる。一方、さしせまった北18条道路整備計画の「移転補償」として考えると「現状補償」の問題に限定されてくる。この二つの流れが同じ時期に起こり錯綜していたために混乱があったと思われる。即ち当初副学長、学務部はキャンパスマスタープランの中で考えたのに対し、途中から施設部では「移転補償」に限定してきて、馬術部はそれに振り回される結果になった。いずれにせよ、これで馬場・厩舎の移転の方向は、移転先は第二農場北西の角、内容は現状補償で決まった。

c) 平成9年4月以降

この時点から馬場・厩舎の移転問題は、第二農場北西の角、現状補償という条件のもとで、今後数十年間活動する場としてベストのものをどのようにしてつくるかという点に絞られてきた。5月14日には施設部、学務部、農場、馬術部の間で話し合いがもたれた。このときの主な内容は、北大敷地西側境界線に沿って通学、堆肥運搬、補助的車両通行のための道路を確保することであった。7月23日には市役所・北大関係者・設計事務所関係者が一堂に会する集まりがあり、設計工程・現地調査など移転の具体的な打ち合わせが行われた。この席では、市役所サイドからは現状補償一点張りの主張がされたので、これでは先行きが思いやられ「馬術部は好き好んでこんな条件のよい現在の場所から最も遠い北西の角地に移転するのではなく、北18条道路整備計画に協力するからではないか。我々は補償された施設に不満があっても今後数十年間活動していかなければならない。現状補償だけを主張するのであれば、馬術部にも移るか移らないかの選択権を与えよ」と主張し、会議は一時進まなくなった。今後のすべての困難な問題はこの「現状補償」の壁であった。市役所関係者はこの点については譲らなかつたが、言ったことにはきちんと対応し、その後不愉快なことは一つもなかった。これ以降は馬場・厩舎・部室の内容が、平成11年3月1日の竣工引渡しまで、設計・施工・手直しなどを経て確定していくことになるが、その詳細な経過を辿ることは避け、問題となった主な点を次の「施設の概要」の中で述べるにとどめる。

4. 諸施設の概要

a) 馬場

現在の敷地面積しか認められないという制約の下で次のような内容とした。1) 本馬場を 60m×90mとし、馬場の競技を二面同時にできるようなスペースをとった。2) 準備馬場(60m×約 49m)と本馬場の間は、移動柵で区切ることにし、柔軟性をもたせた。3) この結果、現在のバドック、傾斜地を敷地内に盛り込むことはできなかったが、20m幅の周辺緩衝緑地帯のスペースを有効に活用することをで対処したいと考えている。北大敷地西側境界線に沿った通路は幅 3.5mだけが認められた。

b) 部室

厩舎と部室を火災防止の観点から別棟とした。部室は、部室(12.5 畳)、男子(12.5 畳)及び女子(6 畳)更衣室、男女別トイレ、シャワー室からなる。男子更衣室と部室は、境の戸をはずすと一つの部屋として使用できるようになっている。二階は合宿所(44 畳)及びバルコニーからなり、バルコニーは試合の際には審判席として使用できるよう外からの階段を設けてある。このように、部室は現在より広さ内容ともかなり充実したものになりました。

c) 厩舎

14 頭分の馬房、飼料庫、鞍置き場、装蹄所(兼洗い場)からなる。中央の通路は広くしたかったのですが、現有面積との関係で断念し、その代わり格子戸をとりつけ、場合により馬が首を出せないようにしました。馬房は現在より幅が 30cm ほど広がりました。

d) 乾草庫

天井裏の乾草庫は、ロール乾草の時代に対応して、地上に下ろし同容積分の別棟のD型乾草庫とした。当初から乾草庫の面積増を一貫して主張しましたが、「移転補償」の壁で実現しなかったのは残念でした。そのかわり将来の増築が可能なようにレイアウトしてあります。このD型乾草庫は、市街化区域の建築基準に則った立派なもので、トラックの乗り入れを想定しております。実際問題としてこの乾草庫ではスペースが足りないため、施工業者と市役所との間の完成引渡しと、市役所と北大との間の完成引渡しの間に(つまり馬の引越しの前に)厩舎の屋根裏に床張り工事を行い補助的な乾草庫をつくりました。この費用として、一部は学務部から出していただきましたが、大半は後援会の寄附を使わせていただきました。

5. おわりに

今回の馬場移転問題は、いままでみてきたように、「北18条道路整備計画に関わる移転補償」の面と「キャンパスマスタープラン中の馬術部の位置」という二つの面が錯綜していた。また、共に全学的な機関で議論されてきたため、直接意見を述べる機会はありませんでした。また交渉過程でも学務部や馬術部は当事者なのに、間接的にしか意見を述べるのができない場合もあり歯がゆい思いをしました。また、未解決で残された問題もあります。その第1は、北大敷地西側境界線に沿った通路が現時点で大学の予算の関係でまだ実現していないことである。部員の通学、堆肥の運搬などに支障が出ており、早急に解

決しなければならない。第2は防風対策で、これは当初から気がついてしたが、まだ決定的な解決策が見つからない。第二農場は吹きさらしになり、砂の飛散、冬季間の練習など頭の痛いところで、植樹、防風ネットなどあらゆる努力を払う必要があります。第3は、臭い・はえなどによる周辺住民とのトラブルです。この点も我々は当初から危惧しており、この場所を希望したわけではないので第一義的には我々に責任はないともいえますが、何とか努力をしなければならないでしょう。キャンパスマスタープランの議論に我々も加わって時間の余裕があれば、もっと広いスペースの中に環境とマッチした馬場・厩舎の設計も可能であったと思われ残念である。

しかし全体的には、「移転補償」の制約の下では、市役所、設計事務所、施工業者の担当者の方々がよく我々の主張・要望に耳を傾けていただき、結果的によいものになったと考えており、感謝しています。最後になりましたが、この間にお世話になった皆さんにお礼を申し上げなければならない。経過報告の中では述べませんでしたが、高野文彰氏にはこの移転計画の当初から、馬場・厩舎のレイアウトや設計に相談にのっていただき図面を引いていただきました。氏には宮城国体の馬場設計の経験があり、まだ現役の選手であり、私が4年生の時の1年生という気安さもあってずいぶんと仕事をさせてしまいました。さきに述べましたように、大学側の対応が、「キャンパスマスタープラン」の「夢のある案」から「現有スペースの移転補償」へ急展開し、馬術部が結果的に振り回され返答に時間的余裕のないときもあり、無理なお願いをしました。あるときは、歯痛で歯医者さんから帰ったばかりで話せなのに電話口まで無理強いしたりしたことも気になっています。もう一つの問題は、馬術部の要望を直接札幌市役所に聞いていただきたいと申し入れましたが実現せず、歯がゆい思いをしていました。これには、岡田光夫顧問、八木正巳氏が足を運んでくださり、おかげさまで馬術部の状況をよりよく理解していただけたのではないかと思います。厚くお礼申し上げます。畜大OBの中曽根宏氏、長岡源一郎氏には、日頃部員がお世話になっていることに重ねて、ご丁寧に乾草庫の設計やレイアウトに何度も示唆をいただきました。前述のように、その通り実現したとは云えませんが、一部は活かされていると思います。この場を借りてお礼申し上げます。後援会員の佐合義弘氏にせっかく寄贈していただいた飼料庫は、新しい厩舎に算入されたため残念ながら取り壊しとなりました。新厩舎の飼料庫は、氏の寄贈によるこの飼料庫が基礎になっていることを記憶に留めるためプレートに記述し残しました。移転に際しての後援会の寄附金も当初の予想をはるかに越える金額が集まりました。快く多額の寄附に御協力いただいた会員・OBの皆さんに厚くお礼申し上げます。その過程で、佐合義弘氏、大場善明氏、八木沢守正氏、石川信行氏ほかの皆さんにはご尽力いただきました。実は、厩舎の屋根裏工事は寄附の集まり具合の予想がたたなかったために、最後まで床張をするかどうか迷っていました。この機会を失すると困難との結論で踏み切りましたが、結果的によい目がでてよかったと思います。寄附金の一部は半沢杯馬術大会での馬場開きセレモニー及び夕方のレセプションの費用にも使わせていただきました。考えてみますと、今回の馬場移転の問題に私が関わってからでも短いようですが三年半の歳月がながれました。その間現役部員の担当者も、中村君（北村（薫）さん）、亀山君、田中君、金丸君と替わってきました。彼らの協力にも感謝して筆をおきます。（99. 6. 8.）

移転

ついに20年間使われてきた厩舎が取り壊されました。必要な物をすべて運び出したあとの厩舎は空っぽで薄暗く物静かでした。馬がいはいのは分かっているのに、馬房の中を覗いてみたり入ってみたりして、そうすると「本当に引っ越したんだなあ」と実感しました。

引っ越し直前の部室はひどかったです。物は散らばっていて、もちろんゴミも散らばっていて、流しは洗い物が積んであり、詰まって水がたまっていて、給湯器は水漏れのせいで使えず、畳はあちこち何かのシミがあって、場所によってはクサっていて、今から考えるとよくそんなところで寝泊まりして、更には料理までして、なれというのは恐ろしいと思います。けれど、そんな部室でも、というよりそんな部室だからこそ愛着があって今でも前の部室の方が居心地がよかったという人もいます。また、まだ馬場は少し残っています。後1年はこのままのこっているかとおもいますが、いつか完全にこの馬場の面影が無くなる日が来るでしょう。見ておくら今しかありません。新しい馬場を見に来られるときには、古い馬場も少し見て行かれるといいとおもいます。

新しい厩舎については、本当にすばらしい物を作ってくださいました。できあがるまでに何年間かにわたる交渉があり、その結果このように厩舎や馬場、部室などが前と比べられないくらいきれいで立派にできあがりました。この馬術部の移転に関係された方、ご協力下さった方たちには感謝でいっぱいです。

さて、実際どのような物ができたかという、写真がいくつか載っているはずなのでそれを参考にしてほしいのですが、とにかくきれいです。それに、今までよりも広がっているし、いつか厩舎内でもお湯が使えるような設計にもなっています。けれど実際使ってみて問題はいくつかありました。いくつかあげると、馬房内の乾草用に作られたバスケットの位置が高すぎだということ、蹄洗台に作られた排水溝がすぐ詰まってしまうこと、馬場の入り口の開閉が一人ではやりづらいことなどもうどうしようもないことがあります。その他にも農場の隅にあることから風が強いという問題もありましたが、これは東京OB会のご協力があり植樹という方法で解決できました。ありがとうございました。これからも毎年何本かずつ植えていければいいと思っています。そして今一番大きい問題はボロ山と臭いに対する苦情でしょう。ボロ山は、今までの2倍以上の容量があったのですが、農場が取りに来られないと言うことでもうピンチです。なおいについては古い馬場でも同じ様な問題があったのではないかと思います。すぐに解決する方法も見つからず、ボロ山にあるカーテンを閉めることと、ただ掃除をきれいにするぐらいになっています。

今までと変わったところはたくさんありますが、建造物で増えた物があります。写真に写っていると思いますが、D型★で旧厩舎の2階部分の面積も代わりになりました。はじめ小さいのではないかと考えていたのですが、厩舎2階もあわせれば十分すぎるほどの大きさだというのが分かりました。しかも電動シャッターで開け閉めが簡単です。

僕にとって一番快適になったのは、部室棟です。きれいになったことと暖房がしっかりしているということの他にシャワーがつけました。シャワーがついたことでボロ山から授業へ直行しないですむはずです。1週間風呂に入っていないなんていうことも無くなるでしょう。

それから、部室が圧倒的に広くなりました。部室、男子部室、女子部室の他に2階にミーティングルームができたため、いままでつくってしかなかった新歓合宿も今年からは広々としていました。また部室が広いと、コンパも密集しなくてすむようになり、つぶれた人間をそのままおいておけます。とにかく、部室に関してはとてもきれいで広いので、これを維持するためにこまめに掃除しています。

前に書きましたがこの移転は何年間かにわたったため、現役部員では全体を把握できませんでした。そのため、本来僕たちが気づいて要求していけないといけないところまでほとんどすべて市川先生にやっていただきました。まだ、一部問題も残っていると言うことで市川先生にはこれからもお世話になります。ここで、あらためてお礼を言いたいと思います。ありがとうございました。

OB 寄稿

旧馬場と旧厩舎にありがとう

昭和 47 年卒 今井敏郎

いまだに北大に在籍しているものの、ほとんど馬場に足を運ぶことのなかった私ですが、思い出の馬場がなくなるといので、先日その馬場を見に行きました。春の気配は日に日に強まる 3 月半ばでしたが、まだ雪に覆われた馬場に残る練習の跡もそのままでした。ただし馬たちはすでに新しい方に移され、厩舎が空だったのを見て一抹の寂しさを覚えました。

昭和四十三年の同期で残ったのは梶村(主将)・榊井・大見の諸氏と私の 4 人でした。昭和 46 年、すなわち私達が 4 年目の役員の時に、この厩舎と馬場への移転があったのです。私は部の仕事分担が比較的軽かったためか、移転に関して八方手を尽くしてくださった半澤部長(当時)に、必要なときに手を貸すように言われておりました。その件で私が記憶しているのは、半澤部長に伴われて、丹羽学長(当時)を大学本部の学長室にお尋ねし、お願いの挨拶をしたことであります。その時の移転に関する事情は、46 年度の部報の半澤先生の「巻頭の言葉」に一番凝縮されているように思いますので、それを抜粋引用させていただきます。「大学当局、文部省、文化庁、その他多くの関係者の方々の好意と援助によって、念願していた馬場と厩舎の新築移転が実現し、旧第二農場の東南端の一角に、重要文化財になった、旧第二農場の建物を背景に、昨年秋に落成した。晩秋の 11 月 23 日、永井一夫部長をはじめ、来賓、先輩、多数のご参加を得て馬場開きを行った。馬場の内に祭壇を設けて、三吉神社の宮司によって修祓を厳粛に行い、将来の繁栄と無事を祈った後、簡単な障害の飛越競技を催し、午後には雪印健保会館で祝賀会を開いた。板垣札幌市長をはじめ多くの方々からお祝いを頂戴し、一同心から落成を祝った。馬場を造るのに当たって、札幌市役所の建設局長になられた岡田光夫先輩から市の道路工事現場から多量の土を運んで頂き、前の札幌競馬場長の大木さんからは馬場柵の支柱の寄贈を受け、また馬場開きには障害をお祝いに頂いた。厩舎の建設にも大木場長から多くのご教示を頂いた。また厩舎の建設場所の選定については紆余曲折があったが結局施設委員長の大野工学部長のご配慮によって現在の位置に決まった。文化財用地との境界についても文化庁の好意によってバドックが作られることになり馬場の北側の空き地の使用についても農場側の厚意を受け、さらに馬場周辺的环境整備について農学部(当時)の明道教授に指示を仰ぎ、演習林の援助を受けて、その他佐合、小野両氏からも格別のご援助をいただいている。ポプラ、ライラック、オンコを植えて段々に調えることにしている。

馬場も厩舎も部室も少し狭いと考えられるが、欲を言えば限りのないことで、先輩が旧い処でやって来た労苦を偲んで、我慢をして大切に使ってほしい。一冬を過ごしてみて、前のところとは格段の違いがあり、人も馬も楽に活動ができ、休息もできたことと思う。』これを見ていただいて、大先輩の方々、特に半澤部長先生の多大なご尽力を思い出し、今

一度感謝しようではありませんか。

また半澤先生の文中にもありますように、岡田監督のご厚意でいただいたダンプカー何台分の土を、毎朝の練習時に、馬に乗っていない時間部員がスコップと一輪車の手作業で、小栗コーチ(当時)の下、少しずつ坂や環濠の練習コースに作り上げて行ったのも、今となっては楽しい思い出です。その作業に不満も言わずについてきてくださった当時の下級生の方々にも、この場を借りてもう一度感謝したいと思います。このへんで、「旧」馬場と「旧」厩舎となる「私達の過ごした場所」に未練を持つ「先輩」の話は止めにして、新しい馬場と厩舎(これも先日見させていただきましたが、素晴らしい設備です)にブラボーの大絶賛を送るとともに、市川現部長をはじめとする関係者の多大なご尽力に感謝いたします。現役の、また未来の部員の方々には、これを馬術部の大飛躍の足がかりとしてくださいますように、エールを送ります。

ボブラ並木の頃

昭和39年度主将 瀧澤南海雄

I はじめに

馬場が再び北に動くという。

私にとっての馬場は、今でもボブラ並木の傍らにある。何時でもボブラを見上げ、ボブラの影を踏みながらの部活であった。

しかし、卒業後30年を経過した今思い出せるのは点景でしかない。それを幾つか書き留めてみよう。

II 初めての馬との出会い

私は父の影響(学生時代に馬術をやり、軍隊では満州の騎兵隊に属した)もあり、北大に入学したら馬術部に入部することを受験のときから決めていた。初めての練習に参加したとき、各馬の違いがまったく分からなかった。どれを見ても同じ馬にみえたのだ。それでも日がたつにつれて、それぞれの体型的な違いや、性格の違いが分かるようになった。そうしてみると、どうして今までわからなかったのか、と不思議な程馬たちは個性的であった。まずは飛びぬけて個性的であった馬たちのことを…。

○朝清 (アサキヨ)

ブルトンの血を引く大きなセン馬であった。この馬は非常に頭がよく、たびたび放馬した。引き綱は自分で解く、馬栓棒を一番低いところまで掛けておいても、その大きな図体でどうやって潜るのか、何時の間にか奴は外に出ているのだ。そこでわれわれは飼桶にエンバクを入れて地面に置き、朝清が食べ始めたところを大勢で取り囲み、だんだんと輪を縮めて捕まえようと試みる。しかし曲者の奴は、エンバクを食べながら上目遣いで状況を

見定め輪がある程度まで縮まってくると、一番気の弱そうな部員めがけて突進する。情けないことに、その部員は予想通りに逃げ出し(奴の眼力は本当に大したものだった)包囲網はあっけなく破れ、奴は再び自由を満喫するのであった。

朝清は重種の馬であったが、上手な騎手が乗ると、停止から3～4歩の速足を経て130cm程度の単一障害を飛ぶ能力を持っていた。しかし並みの騎手にとっては、逃げる、止まる、重い馬であった。

ある時とんでもないことが起こった。畜大で行われた国体予選での出来事である。貸与馬競技に朝清を供出したのであるが、選手を乗せて入場した朝清が、あろうことか、いきなり単一障害を潜ったのである。しかし哀れな選手は、とっさに横木を潜るという技術を持ちあわせていなかったのも(そんな技術を教えてくれるところなど、何処にあるものか)その結果、選手は両腕の上に横木を抱えたまま走らされ、満場の笑いを一身に受ける恥辱を負わされる羽目になったのである。まことにけしからぬ馬ではあった。

○北楡 (ホクユ)

アングロノルマン種の牝馬であった。馬場と障害をこなす馬だが、非常にずる賢い馬で、咬癖と蹴癖を持っていた。当時はポプラ並木に無何有道路沿いにパドックがあり、天気のよい日は馬をその中に放していたのだが、何人かの観光客が彼女に服を破られたと聞いた。

当時の馬場はポプラ並木沿いにあり、ポプラ並木を背にして馬場を見ると、左奥にバンケットがあった。そのバンケットと馬場坪に囲まれた三角形のコーナーを「北楡コーナー」と我々は呼んでいた。障害の試合になると、彼女は何とか飛ばずに済ませようと最大限の抵抗をするのである。その抵抗する方法の1つが、その三角コーナーでの膠着である。彼女は抵抗1分で騎手が失権することを、そして、それ以上に自分が障害を飛ばずに退場できることを、いつのまにか知ってしまったのだ。そして、膠着のためのお気に入りの場所が「北楡コーナー」なのであった。しかし、いつでも彼女の思惑通りに行くとは限らない。騎手の技量によっては1分の抵抗を続けることができないことがある。そんな時には取って置きの技を披露した。なんと馬場坪を飛び越えて馬場の外に出てしまうのだ。もちろん彼女は、その瞬間に騎手が場外失権することを、そして、それ以後自分が障害を飛ぶ苦労から開放されることを知っていたのだ。しかし飛ばれた方はたまったものではない。「なんで80cmの障害を嫌って120cmの馬場坪を飛ぶのよ!」と大いに嘆くことになるのであった。

○北嶺

これもアングロノルマン種の牝馬である。大変に胴が長い馬で、歳を取っている事もあるが背が大きく落ち込んでいて、大袈裟に言えばダックスフンドのような馬であった。このため、この馬の速足は上下の振幅が非常に大きく、鎧上げの軽速足をやらされると、大変な苦痛を与えられた。そこで初心者はみな、この馬に当たらないように心の中では祈っていた。

彼女も大変ずるい馬で、素通の障害は逃げる止まるであったが、ある競技については自

らを奮い立たせて飛越するという際立った性質を持っていた。彼女が六段障害を見た時の様子は今でも忘れられない。目がらんと輝き、体全体に力が漲ってきて、彼女が六段障害が心底好きなことが、誰の目にも明らかに分かるのである。北嶺は熊本国体の同競技で優勝しており、道内の大会でも数々の好成績を残している。

Ⅲ部室、合宿、作業での出来事

○部室

当時、部室は第一農場の厩舎の中にあった。中には二段ベットとストーブ、長靴棚の他は大した物がなかったように思う。通路を挟んだ向かいの部屋には冬の間、ブタの餌とするための馬鈴薯が山積みになっており腹べこの部員のよいおやつになっていた。ある日畜産学科の菅野君が、豚の頭を丸ごと持ち込み、ストーブの上の大鍋にいれて煮はじめた。頭蓋骨の標本を作るというのだ。ところで豚の頭には食べられる部分が結構あることに気付いた部員の何人かは、脳味噌も含めて、すべて胃に収めてしまった。

○合宿

当時の合宿所は農場倉庫の2階であった。この倉庫かなり大きい建物で30～40の部員が狭さを感じずに寝ることができ、そのうえ十分な広さの宴会場のスペースまで取れた。合宿が始まると、2階への上り下りする階段は、さながら地獄の通路と化したものだ。というのも合宿のスケジュールがいま思えば凄いのだった。まずランニングを2～3キロこなし、馬装を終えてから、腕立て伏せとうさぎ跳びをそれぞれ100回程、馬場に移動してからは飛び乗り、飛び降りをして左右20回程やらされて、やっと馬に乗ったと思えば鈴上げの軽速足とくる。まったくもってほとんどいじめの世界であった。

○作業

夏の合宿では厩舎の床やパドックの修理をすることが常であった。ある夏の暑い日のこと、みなで上半身裸になり、パドックの柱を引き抜くためにスコップで掘り返していると、側を通りがかった年配の女性観光客数人が、「親御さんがご覧になったら嘆くことでしょうね。」と言い合いながら通り過ぎて行った。当時は乾草を牧場が生産しており、また馬たちはすべて農場に所属していた(国有財産であった)ので乾草は必要量が支給されていた。時期になると、使役馬に二輪の馬車を装着して、牧草畑に行き、地面に倒れている乾草を柄の長いフォークで馬車に積み上げる。いいかげんに積むとバランスを失い、馬の背に重量がかかりすぎたり、逆に後ろ荷になって馬が空中に浮くことになる(実際にそれに近いことが起こったことがあるのだ)積みおわったら厩舎に帰りフォークで2階へ放り上げる、2階では、それを部屋の奥へ運び、体全体で壁側に押し付けてできるだけ、固く詰め込む。重労働であった。ところで、入部して3年目に私は突然花粉症になり、いまだに乾草に触れたり埃を吸うと、アレルギー反応を起こす。乾草上げの使役がもたらした労務災害である。

○幻のアイスクリーム

夏になると、第一農場入り口の門柱に「アイスクリームあります」という看板が時々かかることがあった。これは畜産学科の実習で作られたアイスクリームを、観光客に売るためにぶら下げたものであった。このアイスクリームはジャージー種の乳で作った、脂肪分の高い本当のアイスクリームというべきもので、非常にうまかったが生産量が少なく、一回に20個程度しか売りに出されなかった。そこで、「アイスクリームあります」の看板を見つけると、われわれがすべて買い占めてしまい、観光客にとっては幻のアイスクリームとなることがほとんどであった。ちなみに、アイスクリームの原料となる牛乳は、現在の馬場にあった、牛舎で飼われていた牛が生産したものであった。

IV ポプラ並木での出来事

○裸馬

現在ポプラ並木の道路は並木の部分だけで終わり後は畑になっているが、当時、ポプラ並木の道路は北へ一直線に伸び、現在の獣医学部前の道路に続いていた。ポプラ並木が切れると偽アカシアの並木がつづき、それも切れるとはずれに1本のポプラが立っていた(このポプラは陸上競技上の側に現在も残っている。)

天気の良い日に暇を持て余す部員は、無口な曳綱の裸馬に跨り、この道路をよく走った。道路が直線だから、ハミがなくても不便はなかったのだ。観光客も馬が走ってくれば道を開けてくれた。また、ポプラ並木で馬が走っていると、絵になるので、観光客も喜んでくれた。

ここにお調子者の目立ちたがりやがいた。観光客の視線を一身に浴びる快感にハマッタ彼は、しょっちゅう馬をパドックから引き出して走らせた。今日も今日とて、かつこいいところを見せようと、北洋をポプラ並木まで引いていき、観光客の前で飛び乗ったが、あろうことか、勢いあまって反対側へ転げ落ち、畏怖の念を抱かれるどころか、大笑いされてしまった。

○「蜚雪時代」のモデルになる

ある時、受験雑誌から表紙に使う写真を取りたいので、馬に乗ったモデル3人を都合してほしい旨の依頼があった。そこで私と野田行文君と美人で有名だった農学部の女学生の三人でモデルを務めた。馬に乗ったままあれこれポーズをとらされ、「はい笑って…」の繰り返しで2時間ほど続いた。笑顔無理に作るので、終いには顔が強張ってきて引きつった笑いしかできなくなった。それでも出版された雑誌を見ると、ポプラ並木を背景に笑顔の3人が馬上におさまっていた。

○ニッカウキスキーの原酒を楽しむ

ある時、ニッカウキスキーの社員が広告写真を撮りにポプラ並木に来た。そして彼らはウイスキーの樽をポプラ並木において写真を撮った後、2～3日じゅうに取りに来るからと樽を預けて帰って行った。

もしかしてと考えると樽を揺すってみた。すると嬉しいことに「チャポンチャポン」と音がするではないか。そこでキャップを外し、重い樽を逆さにしたところ、直径30cmのボールを満たすほどの原酒が出てきた。早速酒盛りになったのは言うまでもない。

○飛び出したアベック

前述したように合宿の朝一番の行事はランニングである。列を作ってポプラ並木を北に向かう全員で掛け声を掛けながら走っていると、ある朝、道路脇の牧草畑からアベックが慌てて飛び出てきた。昨夜のお楽しみの後、寝込んでしまっていたらしい。藪蚊も何のその、お盛んなことだ…。我々は腹の中はともかく、顔だけは素知らぬ風を装いつつ走り続けた。

V 馬術部賛歌の誕生

昭和38年であったと思う。1期先輩の三浦清一郎兄との間で、「部の歌があってもいいな」という話になり。「俺が詩を作ったら、おまえが曲をつけてくれるか？」と尋ねられ、「やりましょう」と答えたのが、馬術部賛歌誕生のきっかけである。

暫くして詩ができてきた。教育学部に学ぶ文学青年の三浦兄に相応しく、豊富な語彙を駆使した高邁な詩であった。この詩に曲を2曲つけた。1曲は現在歌い継がれている日本音階を基としたもので、もう1曲には西洋音階を基としたメロディーを付けた。

「曲が2曲できました」と三浦兄に報告すると、「歌ってみろ」と言われ、2曲を続けて歌ったところ、「絶対に1曲目がいい」とのことで、馬術部賛歌がめでたく誕生となった次第である。

近年、同期の松永武彦勲から北大寮歌集を貰い、馬術部賛歌が寮歌集に載っていることを知り、大変嬉しく思った。

VI おわりに

思い付くままに、昔のことをだらだらと書き連ねた。現在の馬場に移転して以後の部員諸兄には、馬術部賛歌以外は縁のない話で退屈であったろうと、申し訳なく思う次第である。しかし私と同じ時代に馬術部生活を過ごした者には、すべて思い当たる事柄である。

そして、現在の部員諸兄は馬場での思い出を一生抱いていくであろうし、移転先の新たな馬場でも、これからの部員諸兄が大いに思い出を育んでいく事であろう。馬が居るといっただけで、既にそこは思い出を生み出す宝箱となっているのだから。

馬匹紹介

はじめに

今回の部報では紙面上の都合により調教報告を別冊とさせていただきました。よろしくお願いします。

北牙・ファストバロン

バロンはとても気難しい馬である。体を触られるのが嫌いで、僕がサブについたばかりのときは、手入れのときに噛まれまくっていた。しかし毎日のように手入れしているうちに、だんだん僕になついてきてくれると、とてもうれしくてバロンが大好きになってしまった。それ以来普通の馬では物足りなさを感じるようになってしまった。バロンこれからも怪我をせずに頑張ってくれ。

《馬体管理表から》馬房で昼寝。結果…左半分ボロまみれ自分が悪いんだぞ

北凌・ハギノレジェンド

レジェンドはかわいい奴だ。目がクリッとしていてよい家柄出身のお坊ちゃんみたい。でもそのぶん繊細な所もある。いやでも…やっぱり天然ぽけか。結構才能がある馬だったりもする。来年こそは全日へ！

《馬体管理表から》雪の下の草を食べていた。放牧中寝たらしく全身雪だらけ、ゆきだるまダー

北旋風・トルネードダンサー

僕はトルネードの馬付として北日にいきました。この馬はスティーブルで他馬が次々と失権するなか見事に帰ってきました。この馬の走行を見て僕も北日に出場したいと思うようになったわけです。普段のトルは餌付け前には馬房で大暴れ、壁を蹴って穴を開ける。引き馬に連れて行こうとするとすぐ速足になる。食い意地のはった馬ですが、暴れなくなる気持ちよく分かります。

北鈴・スズロード

スズは練習後鞍をおろすと必ず寝る。だから砂を落とすのが大変だ。スズは体が汚いくせに手入れが嫌いらしい。だから鎖を噛まずにはいられない。スズはとても食いしん坊だ。2本の馬栓棒の間から顔を出して餌をねだる。スズはダイエットをしているのかもしれない。餌いの3分の1くらいを口からこぼす。スズはわんぱくな奴だ。でもそれがかわいいのだ。

北蘭・アーネストヒダカ

厩舎を出る足が震える。手をポケットから出していると、体の芯まで冷えそうだ。冬の寒さはこんなものではないと知りながら、外に繋がれている馬たちを見回すと、黒い馬着を着た1頭の所で目は留まった。

まだ暗いので毛色はよく分からながその細く長い顔の中に気品漂う目がすべてを語っている。ヒダカだ！心の中で叫びを押さえながら、やさしい自分を装ってそっと近づき額をなでると、彼女は無邪気な目をして、匂いをかぎながらもう一方の手に鼻先を近づける。しかし、餌を持っていないことに気づくと、一変してすべてを見透かしたような目で横を向く。これだけのことがなぜか穏やかな朝を迎えさせてくれる。

日向と日陰の区切りがはっきりとした仮厩舎横のバドックにわずかに残った緑の木の葉と美しい空の色の間で、遠くを見ている彼女が見えた。夏を迎える前の不運の怪我により、この時間だけが彼女の外を楽しめる時となっている。その陽光のものと薄い栗色の毛は筋力の衰えこそ隠し切れないものの、ある瞬間さえくれば彼女がかつての能力と元気で私たちに多くの喜びを与えてくれるのではないかと語り掛けてくる。

そんなことを考えながらそっと近づいていくと、彼女はふとこちらを向いた。

《馬体管理表から》ヒダカとかけまして、松山千春と解きます。その心は？ 毛がない…

北祥・シンコウスピリット

ペロペロしてくる。厩にもにている。よく馬房でブラブラ揺れている。障害は止まったりすることはほとんどない。でも…よく落とす。なんか最近腰が悪くなったようだ。でも人気は1番だ。だってかわいいんだもん。頑張れよスピいざ全日へ。

《馬体管理表より》今日スピは鼻血ブーになりました。でもすぐに直ってよかったです。

北神威・ローズ

ローズは97年10月の入厩以来OBの中村さんにずっと調教をしてもらってきました。僕が馬責をやっていたのは11月から1月の3ヶ月と7、8月ですが、シーズンを通して見てきたことや中村さんとの話を中心に簡単に書きたいと思います。

ローズ自身についてですがもともとバランスの起きた馬で飛節は柔らかく、前肢も良く上がって持っている素質は十分なものがありました。フラットワークについては、左右の脚に対する反応はとても敏感なのですが、まだ扶助をはっきり理解していなくて、興奮しやすい性格もあってか、騎乗中に馬が混乱しているような場面が見られました。障害は半沢杯からシーズン中ずっと新馬の部に参加しました。物に対してはきっちりと馴致さえすれば特に怖がるような物はありませんでした。むしろ物よりも足場、足元をよく見て雨でぬかるんだ場所や、穴下り坂がだいの苦手でした。入厩当時から心配されていた右前肢の屈腱炎はやはり、なかなかおさまらずちょっと運動量が増えたとすぐに腫れてしまうといった状態で、シーズン中はとにかく冷やしながらやるしかありませんでした。また小さな

傷からもすぐに腫れてしまうなど脚の状態だけは常に神経質にならざるをえませんでした。以上のように、この先まだまだ課題の多いローズですが、誰もが認めるその素質を開花るべくされ、これからも頑張ってくれることを祈ってます。

北王冠・オーカン

札幌の佐藤先生のお兄さんから頂いた。片目が見えない。でも秘められた力が宿る。昔はかなりの馬であつたらしい。シーズンが始まるのが楽しみである。結果は次回教えようそれまでごきげんよう。

メジロゲネシス

北星乗馬クラブから来た。ときどき跳ねるけど、それ以外は申し分ない馬だ。期待されている。また現在北大たった1頭の草毛でもある。今角堂兄に調教をお願いしている。北大のエースとなる日も近い。

ドリームグリーン入厩報告

7月ドリームグリーンはOBの早田さんの紹介でやってきました。競走馬の売れ残りだそうです。名前も母親と同じでドリームグリーン、93年生まれの3歳です。3歳なんて若い馬は未だに見ていなかったのも楽しみにしていました。北口の直前に入厩した去勢を行い、北日在札中はずーと馬房につながれたままで、朝夕のイソジンスプレーから飛び跳ねて逃げ回っておりました。しかし、その幼い表情は愛らしく、また何にでも興味津々の仕草は「お子ちゃまやなあー」という一言です。そうそう彼は1度馬栓棒をくぐり抜けて飛び出したことがありました「何をするか分からないぞ」と皆一日を置いています。でもやっぱりというか、当然というか、サンサイ君は可愛がられています。若いっていいですねえー来シーズンから本格的に調教を始めます。馬体も丈夫なので、しっかり成長してほしいと思います。

【入厩日98年7月20日】

《馬体管理表から》夕方少し曳いてみる。工事の音と保育園児に驚き跳ねる。夜10時頃見ると横になって寝ていた。そりゃそーだね。

マチカネヤノゴトシ入厩報告

来たばかりの頃、外厩でバタバタしていた。結構顔がかわいいので1年生が手を出していたが案の定噛まれた。でも今は嘘のように大人しい。ちょっと駆足が苦手だけど大丈夫。

【入厩日98年10月22日】

《馬体管理表から》朝曳いたらジャンパー。こいつも馬の子だ、冬毛が生えてきた。丸馬場でジャリどもが遊んでいる。

北帝離厩報告

イーリーは囁むし、蹴るし、顔は変だし、汚いし、頭は悪いし性格も悪い。だから当然人気は低く、いつもはなれの馬房で首を振って人を寄せ付けない…。乗ったら乗ったで、巻き込んでみたり、変な飛びかたをしてみたり、跳ねてみたり、馬場はたいていイレギュラー、巻き込み…障害だって満点だったことがあるかな？さらに悪いことに脚の故障がしょっちゅうで、とうとう98年秋離厩してしまいました。でもイーリーは私にとって世界一の名馬です。言葉の通じないはずの動物が自分の気持ちを理解して信頼を寄せてくれることを実感する瞬間ってというのは、本当に幸せな気持ちになるものです。馬は人と違ってうそつかないし。(頭悪いイーリーならなおさら？) イーリーはどんな高い障害を飛んでも得られないような喜びを私にくれたような気がする。

〔離厩日98年11月5日〕

《馬体管理表より》イーリアスが蹴ってきたから僕は仕返しをただけなんだ。『クロヤナギの弁明』より抜粋

北彪離厩報告

グラはモモセへ行きました。ももせさんに喉の治療してもらえてよかったね。部班によく使われているそうです。

〔離厩日98年11月5日〕

《馬体管理表から》新生フィルター早くも紛失。クローバーがお好き b y 土肥 アヤシイ草もお好き b y 寺坂

フライト死亡報告

フライトは98年7月29日に死亡しました。

前日始まったセン痛がおさまらず、開腹手術の効果もなく、安楽死しました。

7月28日、朝の飼い付け直後にフライトの様子がおかしくなりました。セン痛かもしれないと引き運動を始めたところ一向に良くなりませんでした。獣医学部の先生にきていただき、痛み止めの注射、補液などを行いました。鎮痛剤のおかげでお腹の痛みが治まることはありましたが、結局薬が切れるとまた同じで、何度も繰り返しました。症状が落ち着いたときに何度か馬房に入れて、補液を試みましたが、フライトが暴れて針が抜けてしまい思うようにはいきませんでした。朝8時にセン痛が起きてからまったく水分を取っていないそして、引き運動をしても効果がないということで、午後獣医学部に連れて行きました。病院で栓にいれて水分補給を行い、パドックで引き運動をして様子を見ることになりました。一時は馬場で引いたときよりだいぶ落ち着き草など食べるなどして、この状態が1時間持てば安心だ、ということまでいきましたが、やはり痛み止めが切れると痛がりました。8時間ほどたちお腹にガスが溜まって、フライトも体力を消耗してきました。寝転んでも起き

上がれなくなったため、セン痛発生後10時間経過したとき、開腹手術を行うことになりました。しかし、手術でもセン痛を起こした原因が不明なままお腹を閉じて、そのまま様子を見ることになりました。

麻酔から覚めても立ち上がるかどうか分からない、と言われましたが、次の日の朝4時頃自分の力で立ち上がりました。その後は補液を行い、水を飲ませ、だいぶ落ち着いてきたように見えたのですが、さらに麻酔が切れ始めると痛みを感じ始めたようでした。時間が経てばたつほど痛みを訴えるようになり、獣医の先生にもうできることはないと言われ、安楽死にすることにしました。

セン痛の症状が出てから、丸1日以上フライトは痛がりながら、最後まで必死に生きてきました。もともとはかの馬に比べて怖がりで、注射や補液は大の苦手でした。小さな傷の消毒でもバタバタするフライトにとって、お腹が痛いだけではなく知らない人に知らない場所で注射などされて、つらいことの連続だったとおもいます。手術後も、獣医のかたがたが立ち上がれないと予想していたにもかかわらず、立ち上がった彼女の姿にみんな驚かされました。

フライトよくがんばったね。

たくさんの幸せをありがとう。

《馬体管理表より》フライトセン痛朝の飼い付けからずっと。夜手術。原因よく分からない。フライトごめん。立ち上がったけど、ダメ。フライトもう痛くない。ありがとう。ごめんね。

事務局より

石川信行（平成 2 年卒）

平成 2 年卒の石川といいます。一昨年より北大馬術部後援会事務局を担当しております。大役ではありましたが、札幌近郊にいる OB として、後援会を永らく休止状態にしてしまった罪滅ぼしに、と引き受けることにいたしました。早いもので活動再開後 1 年半が経過いたしました。昨年及び一昨年の活動状況及び今後の活動計画について報告したいと思います。活動の再開にあたりましては、まず後援会報の製作よりスタートすることとしました。久しぶりの発行ということで手間取ることも多かったのですが、斎藤善一新会長他先輩諸氏のご助言のもと無事発行することができました。またそのときをお願いいたしました後援会費の納入については多数の方の賛同をいただくことができ、深く感謝しております。また予定より遅れはしましたが、今年の 2 月に第 2 号を発行しております。

また新しい企画として、いまはやりのインターネット上のホームページを作成いたしました。もともと構想はあったのですが、函館在住の倉本暢子さん（平 6 年卒）より協力してもよいという申し出がありましたので、全面的にお願いすることになりました。ご覧になった方はわかるかと思いますが、大変立派なホームページが開設されております。当シーズンにおきましては北海道乗馬連盟にご協力をいただきまして、北海道乗馬連盟主催試合の全戦績を掲載いたしました。また掲示板を利用した後の後援会動向の連絡にも利用されております。掲示板につきましてはどなたでも掲載可能ですので、近況等気軽に書き込んでいただければと思います。（北海道大学馬術部後援会ホームページ <http://www4.big.or.jp/~nono/hokudai/>）

また別稿にもあるかと思いますが、今年の 2 月より、馬場移転に伴う寄付のお願いをしたところ大変多くの方から多額の寄付をいただきました。この場をお借りしてお礼申し上げます。また寄付のお願いにあたりましては東京 OB 会の大場先輩、八木沢先輩他多数の先輩に多大な協力をいただきましたことを申し添えます。

後援会活動の経験も浅く、なにかと不行き届きの点も多々あるかと思いますが、先輩諸氏のお力をお借りして実りある OB 会の活動にしていきたいと思っています。ご意見等寄せていただければ幸いです。今後ともよろしくお願い致します。

特集 馬術部の1日

現在の馬術部について紹介したいと思う。まず始めに当番について。当番は朝、昼、夕方と4つに分けられ、1人が週に各当番を1回ずつ行うものだ。これは基本的に馬が1日4食を摂るために行うものだ。

朝当—AM3:50 起床。私は眠い目をこすりながら星空の下自転車をこぐ。どうしてこんなに早く起きなきゃならんのだと心で思いながら部室に到着。泊りの男どもを起こし、彼らをおいて一足早く朝当を始める。朝当は基本的に AM4:30 から始まる。内容は馬を厩舎から出して、馬房上げをすることだ。この作業をいっしょに行う人によってかなり時間差が異なる。自分より早い人がいると助かるし、自分より遅い人がいると、とても自分に負担がかかってしまう。しかし4馬房上げたとなると、妙に充実感に満たされて逆にうれしくなる。その後5時集合で練習が始まる。朝当は大変な面もあるが他の人より早起きするため、爽快感を感じる。これこそ早起きは3文の得。

昼当—PM12:10 開始。主な内容は放牧する馬の入れ替え。放牧は午前と午後と分かれており、馬が馬房内でボーとしてストレスを溜めることがないように行われる。この放牧のいれかえ、全馬入れ替えのため、かなり面倒なものとなってくる。またボロ取りや飼い作りが手際よくいかないと1時ごろまでかかってしまう始末。3講目に講義が入っている場合は昼御飯など食べる暇がない。肝心の昼の1時間を昼当に費やさなければならないというのは辛いものだ。夕当—PM4:30 開始。外に干していた薬を入れ、寝薬をふかふかに敷いていく。また水缶を洗い、飼いをつける。薬入れは外の薬を集めることがとても辛い。何せ非力な女の子だから1度に薬をそんなに集められないし、誤って集めた場合には重くてどうしようもなくなることがある。それは水缶運びも同様である。運んでいるうちにどんどん水が飛び散り、水はなくなるは自分はびしょびしょになるはで最悪な状態。「最悪だ。」と呆然とするしかないのである。

曳馬—講義のない人はやって来て、馬を重要文化財(モデルバーン)に連れて行き青草を食べさせるのである。この時だけはどんな荒い馬でも草を食べる事に夢中になり大人しくなる。こういう時馬ってつれないなあ—と思うのである。また彼らがあまりにもおいしそうに食べるので私も食べたくなるのである。

手入れ—朝と夕方行う。朝は練習後、夕方は曳馬後行う。蹄洗、ブラシがけ、顔ふきといろいろあるが、私が一番好きなのは顔拭きだ。特に目元を拭くときとてもかわいいなあところらまでも幸せを感じる。

投げ草—PM9:00 水缶の水足しと草を馬に投げてあげる。男子がおもに行う。部のコンパがあろうと投げ草のために、先に抜け出したりしなければならない。女子の私にとっては時々やるのもいいかな—と思うけど、さて男子はどう思っているのやら。

宿直—男子のみ。部室に泊まり朝当で起こされるまで床に就く。ここでは毎日のように

飲みが入り語り合う。普段何気ない風になっている男共もこの泊まりで友情が深まるのだろう。この世界を知らない私にとっては羨ましい限りである。

他の諸当番として草刈りと洗濯がある。この草刈り、雨だろうと何だろうと草の多い茂る季節ならばやらなければならない。部員はみんな自分専用の鎌を愛用している。草刈りはビニールドンゴロス2袋分を講義の合間に刈らなければならない。北大構内を自転車でこぎ回り、何とか刈ってくる。刈り場がある時はうれしいが、無い時は泣きそうになる。またいろんなところから草をもらった時は刈らなくてもよいので、何処からともなく歓喜の歌が聞こえてくる。洗濯は泊りの無い女子が夕当の手入れ後顔ふきタオルと足ふきタオルを洗濯機で洗い干す仕事だ。これを忘れると辛いが女子が何人か集まれば話に花が咲き、いつのまにか終わってしまう。この時間はなぜか開放感に浸り本当に話しまくって楽しい時間である。

練習はAM5:00に集合する。ここで出席をとり体操を行う。そして、各馬、装鞍を行い、5:30整列。2年目以上は馬配が言われ、1年目は各馬のチーフに乗せてもらえるか交渉する。馬によってはまったく練習内容が異なるため、いかに充実した練習をさせてもらえるかがその日の気分を左右する。曜日によっては部班、経路回り等が行われている。

バイトについて。部の重要な収入となるものである。おもにモモセと長岡さんが常にある。モモセでは土日バーベキューの手伝いに行く。主に男子は炭入れ女子はゴミの仕分けがあるが、ペンキ塗りや馬房上げ等様々なことを行う時もある。PM2:00~AM7:30まででその後、鳥のモモとムネを3つずつ頂ける。これを全部焼いて食べるのである。特にデリシャスソースはたまらなくおいしい。疲れた後のバーベキューはかなり嬉しい。2つほど部室土産に持っていくこともある。というより持っていけないとブーイングが起こる。モモセさんが言うにはうちの部は20年くらいこのバイトをしているという。バイトにも古い歴史があるのである。長岡さんは基本的に毎日ある。様々な農作業を行うのだ。長沼町に位置する牧場で「北海道にいるんだー」と感動できる場所。昼ご飯の後では昼寝の時間がありおやつの時間もある。こんなに充実していていいのかと思う。時には馬にも乗れる。普段のストレスがここで抜けていく。私のお勧め作業はビート植えとジャガイモ畑の草ぬき。単調な仕事だけれども草を抜く心地よさは筆舌につくし難い。バイトの帰りに長沼温泉やユンニの湯に行けるのもとてもうれしい。長岡さんはとてもおいしいバイトだ。他のバイトとして朝日新聞、競馬場がある。朝日は原稿に間違いがないか調べる校正のようなものだ。競馬場は8、9月札幌競馬開催時期に雇われる。女は誘導馬、馬房割り。男は放馬止め、事故監視、蹄鉄検査がある。日給もよく部にとってもかなりの収入であろう。また競馬ファンにとってはたまらなく行きたいバイトなのだそう。

このように馬術部の生活はとても大変だ。しかし下手をすると家族以上にいっしょの時間を過ごしているのかもしれない。だからこそ良い雰囲気部の活なのであろう。

部員紹介

4年目

大崎智弘（馬匹・獣医）

最近感じること。

- ①動物の思っていることがわかるような気がする。
- ②目が悪くなった。実習で何時間も顕微鏡をのぞいているからだ。
- ③酒がよわくなった。
- ④…

以下省略

最近知ったこと

寄生虫学実習で食品の寄生虫について学んだ。馬術部のみんながきよたや赤ひげで食べる開きはっけ。そのはっけの内臓にアニサキスという寄生虫が当たり前のように寄生している。でも大丈夫、冷凍-20度で一日もすれば半分は死ぬ。50から60度で6秒加熱すれば死ぬ。塩漬け10日マヨネーズ漬け26日で死ぬらしい。しかしマヨネーズ漬けて何？僕らのまわりには微生物（最近、ウイルス）、寄生虫はいっぱいいます。皆さん気をつけましょう。でも大丈夫か、みんな免疫がついているから。

他己紹介

●Duやヒダカがセン痛になった時はすぐに駆けつけどんな小さな怪我も見逃さない。部室で獣医学の本真剣に読んでいる姿は珍しくない。馬術部のシェフ。あらゆるジャンルの料理をなんなくこなす。カレーにおいては、「カレーの魔術師」と呼ばれる。これが大崎兄の表の顔である。裏の顔は…

●獣医・鈴・猫・カレーこれらが彼のキーワードである。よく覚えておくように。

●みんなの前ではなんだか自信なさそうなしゃべり方をするけど、泊りではいろんなことをやってくれるし、カレーはうまいし、実はとても頼りになる彼。もう最長老だね、がんばれ。

尾崎哲浩（副将・工）

いつのまにか、最上級生になってしまいました。今までいろいろ楽しいことや、辛いこと

があって、車で稚内に行って帰ってこれずに怒られたり、ちょっと警察のお世話になったりして、他の部員に迷惑をかけてきましたが、それもこれも今や良き思い出です。後1年精いっぱい頑張ろうと思っています。

他己紹介

①愛車「ローレル」

ローレルの中ではシビれるほどの音感の良い CD が聞けるこれがローレルの最大のセールスポイント。だがローレルの外側(車体)厳しいほどのへこみが…。でもそんな車を愛しげに扱っている尾崎兄がとても好きだ。

②雪駄(せった)

時代劇で侍が良く履いているが尾崎兄は春夏必ずこれを履いているこれで一年過ごしてくればいいと思う今日この頃。

③ファッション

最近、服装がとても清潔だ。恋愛でもしてるのかな？

これからもそんな尾崎兄でいてください。

●ほくが兄に一番親しみを感じるのは、兄が口をぽかんと開けてボーッとしている姿を見るときです。そんなにしょっちゅう見られる姿ではないかもしれませんが、朝の集合時などの、眠かったり疲れていたりするときによく見られるようです。一度あの顔を見たら忘れられません。ボーッとしている顔の見本のようなあの姿…。そんな兄も最近では副将となつてとても頼りがいのある人に見えます。見えるだけでなく本当に頼れる先輩だと思います。来年はトルと共に全日！期待しています。

金丸鉄平（北日幹事・移転）

あわてふためいてやれ魂だとか
抜かれる余裕はどこにもねえ
踊るロマンの血みどろで
軽くなるだけ あとは飛ぶだけ!!

他己紹介

●ぜひバロンを乗りこなして、東京へ連れて行ってあげて欲しいと思います。

●飼料・作業とすべてをこなす我が部の縁の下の方持ち。ときどき、ススキのでギターをひいているらしい。

川崎洋史（主将・獣医）

今年の目標 北大馬術部を率いて全日団体出場を果たすこと。

他己紹介

●さてここからが俺の本当の紹介だ！目ん玉かっぱじってよく読めよ。まあ部でのことは他に書いた俺の原稿でわかってくれるだろう。これから書くことは本当は秘密なんだが、特別に教えよう。絶対に他のヤツにはしゃべるなよ。約束だぞ。愛車のフォードの名前くらいはみんな知っているよな。そうだハンドルが左についているヤツだ。世界を目指す俺には右ハンドルは似合わないのさ。出身は大阪だ。普段は標準語をあつかっているが、ほんまは違うんや。まあ本気を出せば英語の日常会話くらいは余裕さ。I'm geius ってどこか…あれ？何か変だぞ。n が抜けてる…たまにはこういうこともあるな。学校！？そんなものは俺には必要がない。あんなとこ行っている暇がない。練習が終わっても忙しいんだ。昼寝しなきゃな。金…はない。その話は勘弁してくれ。

まあこんなところかな。よし最後だ。耳の穴おっぴろげてよく聞けよ。「失礼しました。皆さんこれからもよろしくお願いします。」

●睨まれると睨み返してしまう程目つきの悪い兄。「スビちゃん」とスビに対しては甘い兄。兄は絶対親バカになるであろう。時として「ヒヒヒヒッ」といった奇妙な笑い声を出す兄は妖怪のようで手に負えませんが、将来に大きな展望を持ったロマンチストなのです。

栗原佳子（主務・文）

馬もやっぱり小さいのがいいです。

他己紹介

●よし子さんはおしゃべりだ。いつもしゃべっている。でもそれが部を明るくしてくれている。ということでこれからもしゃべりまくってください。

●実は英語ペラペラ。主務の仕事もソツなくこなす。しかし最近はMr. Kの世話に手を焼くお母さんらしい。

寺田由美子（後援会・法）

他己紹介

- 宝石で言えばエメラルド。パンで言えばクリーム。花火で言えばパラシュート花火。
- 寺田姉はイーリーの母親である。
- 寺田姉にかかればイーリーもかわいい馬に変身する。
- 寺田姉はつららの母親である。
- 寺田姉のセーターにはつらが空けた穴がある。それでもつららのことを話す彼女は目を細めている。
- 寺田姉は悩める人の母親である。
- 寺田姉は迷える羊に愛情をそそがずに入られない。
- そんな母親のような寺田姉は馬術部になくてはならない人である。

徳永やよい（会計・文）

他己紹介

- 私たちとは遠く離れたところに独自の世界を持っているように思われます。ときどき厳しい面を見せますが、普段は…、やっぱりよく分かりません。
- 優しい。よく人のことを考えてくれる後輩思いの姉である。
- 徳永さんといえば、ローズ。徳永さんといえば、いい人。徳永さんといえば、もちろん「とクボンワールド」

3 年目

井口大地（作業・法）

何だかんだで1年半あーだこーだで後2年、なんか棺桶に両足つつこんでもう戻れないって感じだよね。まっ俺意外の寮生もできたし恵迪馬術部として俺は頑張るよ。

他己紹介

- 寮生である。作業隊長である。酒が好きらしい。いい奴である。
- あまり口を開けずに腹話術のようなしゃべり方をするイグですが、どうやって発音の区別をしているのでしょうか。上級生のだらしなさを容赦なく指摘し部を盛り上げようとする熱血野郎の彼も、選手に選ばれたときには子供のように嬉しそうに笑うそんなイグにがんばれと僕は言いたい。

畔柳宏司（主務補佐 車両・農）

- 1978.5 0 愛知県岡崎市にて、畔柳家の長男として生まれる。
・この頃より“夜泣きかん虫”でうるさがれる。
- 85.4 6 大樹寺小学校入学
- 91.4 12 岩津中学校入学
・優秀な成績で、生徒会長をつとめるなど、最も華やかな時代。
- 94.4 15 岡崎高校入学
・とりあえず出席し、皆勤賞をとる。それだけの日々。
- 97.4 18 北海道大学農学部入学
・馬術部に入ったことで大きく価値観が変わり、今後屋外係へ。
- 2002.4 23 (株) ケボタ農機入社
・結局北海道に残り、営業回りの日々。
- 09.8 30 結婚
・むこ養子になるが、名字は秘密。
- 14.6 35 離婚
・1男1女の親権は妻に。この年岩手に転勤。
・肺をわずらい退社。郷里岡崎へ。
- 21・11 45 再婚
・始めた店がわりと成功。パートの女性との間に子供ができたため
- 35.7 56 死去
・妻と3人の子供に看取られながら1年半の闘病の末に大往生
・ . . . でもスーパースターになりたいです。 くら

他己紹介

●一見気難しそうで恐そうにみえますが、本当は気さくで面白い人です。でも…ギャグは寒いです。

●知能派に見えるが…実はっていうか、やっぱり、馬術部員(=無知能派)である。

竹本和彰（後援会 副務・理）

僕は……よく分からない。よく分からないくらい、複雑で繊細な人間なのです。

他己紹介

●竹本と言えば笑顔、笑顔と言えば竹本。いつでも満面の笑みを浮かべフラフラと歩き回る。頼りなさそうに見えるが部内一の機械通でありパソコンを自在に使いこなす。しかし、

仕事は一生懸命にこなすもミス多め、でもどこか憎めないところがある。ガンバレ竹本。

●自分は一年目の中ではかなり兄とのつきあいが深いほうだと思うのです。が、一見わかりやすそうな兄のこと、実はいまだによくわかりません。わからないのですが、とりえず自分から見た兄の特徴をいくつか挙げさせてもらいます。

一、いつもニヤニヤもといニコニコ笑っている。馬に乗るときもなぜかよく笑っている。

一、朝はかなり弱いらしい。朝の集合時は、5秒後には死んでしまうのでは、と思うくらいきつそうな顔をしている。

一、頭の回転がとても速い気がする。気はするけど…。授業いけないんですか？

一、いたずら好きで、なんだかやんちゃだなあ、とよく思ってしまう。コンパではさまざまなものを混ぜ合わせ、いつも私たちに新しい味を発見させてくれる。

長田拓郎（馬匹補佐・教育）

テレビをしばらく眺めてみた。

好き T.M.Revolution GRAY globe kiroro SPEED JUDY AND
MARY PUFFY 川本真琴 藤井フミヤ 森高千里 久保田利伸 広末涼子
本上まなみ 松たか子 鈴木あみ 桜井幸子 加藤紀子 小泉今日子 鶴田真由
深津絵里 沖原涼子 藤崎奈々子 渡辺満里奈 渡辺真理 所ジョージ 松本
人志 浜田雅功 島田伸助 内村光良 東幹久 志村けん 木村拓哉 中田英寿
嫌い Every Little Thing 河村隆一 華原朋美 榎本加奈子 木村佳乃 佐藤藍子
酒井法子 中山エミリ 鈴木杏樹 藤原紀香 吉川ひなの 中居正広 南原清隆
Kinki Kids 上岡龍太郎 西田敏行 織田裕二 柳葉敏郎 石田純一 反町隆史
古館伊知朗 金城武 加藤茶 永井美奈子 川口能活

こんな人です。

他己紹介

①富山人

たまに富山語というみんなには理解できないような言葉を我々にしゃべってくる。わかんないよう。

②黒縁眼鏡

今ではトレードマークとなっている。ちょっとインテリっぽく見える。(実際はそうではないが)

③競馬

彼はとても万馬券が好き。本命はめったに買わない。いつか当たったらおごってね。大学に俺がいる間に。

●夕方の手入れが終わった後「今日は学生ラーメン食べたい気分じゃない？」とよく叫ん

でいる彼。いつでも一緒に食べにいったやるから安心しろよ。

●熱血教師

浜田浩一（馬備・農）

馬術部での生活も、もう半分以上がすぎようとしている。後半分悔いの残らないようにがんばるぞ。

他己紹介

- 一見黙々と仕事をこなしているようで、実はけっこう愚痴が多い。
- 何だかんだ言って、二年目の影の支配者と見受ける。普段静かそうにしている兄。しかしその実態は、毎回コンパで最後まで残っている酒豪？また、裏では一人で「うっしっし」などと呟いていることもある。いったい彼はどういう陰謀を企んで我が部にいるのか、まだまだ研究の余地あり。調査続行中。
- コーイチサンと呼ばれている。とても優しいお兄さんである。ずっとそのままでいてほしい。

森田崇之（飼料・経済）

JUDY AND MARYがとても好きだ。彼女らの歌にこんな詩が書かれた歌がある。

あたしの悩み迷い、生きる喜びのすべてを
花束にして空に揚げながら
風の中で思い出した

あなたが教えてくれた
うれしい たのしい やさしい気分
遠い空で ああ 今 同じ気持ちでいるなら
大きな文字で手紙を書くよありがとう
心の中に虹がかかった

馬に対してこんな気持ちを持って卒部できたらいいなと思うこのごろだ。

他己紹介

- 新車ワゴンRを乗り回す男その名もゴリッキー。でもその後新型ワゴンR Rが出てちょっとショック。ちょっと下唇が出ていて工系で、お似合いの？国体ホースマネージャージャンパーを着ている彼。最近は芦毛の馬に乗っている。がんばれゴリッキー。
- 先のことはあまり考えずに行動する森田兄。（失礼！）無駄な仕事（台風前の稲わら立て

など)をやらされてもなぜか憎めません

2年目

小野元也（文化企画・水産）

仕事で疲れるのも時間とられるのも、朝早くてきついのもいやだし、留年も怖いけど馬とは離れたくない。でももう少しがんばらんといかんかな。

他己紹介

- 気がつけばいつも口が開いています。本人は気にしているもよう。頑張って直してください。
- えっ水産学部？何1年半で離札する？何言ってるのもちろん馬術部生活を立派にまっとうするんだよね！期待しているよ。
- フニャッ・フニャラ・フニ・フニ・フニャリ
- 彼を見るとあのバロンの下唇を思い出す。

川辺聡（作業・水産）

2年目の川辺です。僕は布団山が大好きですどれくらい好きかというと…4月@日AM5:00布団山で目を覚ます。回りには10数人の部員が苦しそうにつぶれている。6月%日PM1:00同じく布団山にて目を覚ます。3講目の授業に間に合わなくて焦る。なんか冬には夕当てまで眠っている姿が想像できます。

他己紹介

- 別称‘小八木さん’。最近は「おい八木!!」と呼ばれる方がしっくりきます。思わず笑ってしまうことをボソボソとつぶやく、2年目で最も恋多き男です。川辺、その魅力で1つでも恋が実ってくれることを祈ってるよ。
- 川辺は愛に飢えている。

杉山賢治（文・部報）

馬が好き。でも気づいたら僕の周りには馬しかなかった。馬だけの大学生活っていったい…。でも、楽しいからいいや。

他己紹介

●部報の原稿を請求されて困ったよ。よりによって部報担当者の紹介など書けるものではない。けなすわけにもいかないし、誉めるのもしゃくだ。仕方がないので彼の目の事を紹介しよう。彼と面と向かって話をする、その瞳に吸い込まれそうになるので、しっかりと重心を下に、腰を下ろして構えなければならない。いかなる時も油断は禁物だ。

さらにあの目は最近暗い所で光るようになった。この前の投げ草のとき目の光る動物が厩舎の回りをうろちょろしていたので、放馬か？と慌てたが彼だった。まったく人騒がせな目だが、赤い鼻のトナカイの後は彼がサンタさんを助けていくだろう。

一部にギョロという名で愛されているその目が自由に火を噴くようになったとき、彼は真の大物になるだろう。

●目が輝いています。というかむしろ発光しています。2年目コンバはほとんど彼の家で行われます。人望の厚い？杉山、彼が代を引っ張っていくことは間違いないでしょう。

鷹箸俊孝（飼料・農）

みなさんこんにちは、僕は鷹箸俊孝です。入部当初は「調子いい」とか、「口だけ」とか、「タカハシ」とかいわれてきましたが、最近役職についたこともあり責任感や使命感、ならびに馬術部においてもっとも大切な馬を愛する心、さらには上級生を敬う気持ちまでもつようになった、と自分では思っています。

また酒のほうでも以前のようにつがれたらつがれただけ無謀にも飲みつづけ、さらには自ら飲み始め、しまいには理性と記憶を失い暴れまくり、叫びまくりで周りにも迷惑をかけることもなくなって、みんなと楽しく語り合えるようになった、らいいなと常に思っています。この調子で4年間がんばって、一人前の馬術部員になりたいと思います。

他己紹介

●外はおやじ内はお子様。さみしがりで、酔うとみんなに電話をかけまくる。しかしみんな無視。ごめんね、でももうだまされません。

●栃木出身のいなかもの、ちょっとかわいいやつ。

山本裕紀（薬品・獣医）

馬術部にはいって1年が過ぎた。やめようとしたこともあった。馬術部中心の生活にはいろいろ不満もある。しかしほかでは得られない有意義な時間を過ごしていると信じて、頑張ろうと思う。

他己紹介

●普段のやる気のなさ、酒ぐせの悪さはやめましょう。

●正直言って、はじめは、ノーリアクションのどうしようもない奴かと思ってました。読みが浅かった。彼にはかなりのこだわりがあるようです。初回の体育<必修>をサボって(しかも未だに何を選択するか決まっていない。)乗馬レッスンを選ぶ。その徹底した態度は尊敬に値します。…クラスも大切にしましょう。

●彼は背が高くいつもボーとしていて、偉そうです。でもいいやつらしいです。

1年目

犬飼・岩波・大久保・奥村・角田・加藤・国井・高野・佐藤・新宅・高崎・武田・中川・平野・堀内・山口・吉川・渡辺

卒部生

浅野知弘

●エオンを見つめる日は我が子を見つめるような優しさを感じる。兄は後輩に対してもやさしい。最近見かけることがないけど、どうしているんだろう。

●前馬匹の浅野兄は、部員総会で話すのが長くて、よく眠くなった。でも、それだけ馬を心配しているしっかり者。

●浅野さんの家は独身貴族の家みたい。カウンター付キッチンに、シャンプードレッサー。卒部した今は山登りにこっていて、冬の間は来たる山登りシーズンに向けて、ひそかにトレーニングをしているらしい。

田中悟史

●正直言って、現役時代の(特に上級生になってからの)兄は恐かった。泣かされた人は数知れず?っていうか…とにかくそういう人でした。でもOBになった彼はとってもマイルドでスイート。そんな彼にみんなメロメロ。毎朝来てくださいね。

●現役時代最強と恐れられていた田中兄も今やすっかり丸くなり別人のように優しくなった。朝7:30頃「やべっ」って感じで部室に駆け込んでくる姿がほほえましい。

●トルネードが大好きです。毎日馬房の前でトルに声をかけてやっています。そんな兄ですが部活が終わると優しくなり、たまにはどこかに連れて行ってくれます。でも男2人で海水浴に行ったのはやっぱり失敗でしたかね?

寺坂龍児

- イーリー大好きな人。実はケーキという噂もなきにしもあらず。実は法学部のとてもインテリジェンスな人だったりもする。
- 寺坂兄は、ケーキで言えばマロンケーキ。バンドで言えばキーボード。寿司で言えば穴子。

小谷友也

- 怒る時は静かに怒ります。「全然緊張しない」といいながらすごくあがったりします。どっかのお坊さんみたいですが馬に乗るとすごいんです。
- 小谷さんはけっこう忙しそうな人です。実験の合間に教食でご飯を食べていますが、いったんきたら時間を気にしながら長い間いすわっています。

角堂豪

- ある日のコンパの席で、酔いながらも「人間って面白い。」なんてくさいことを言える兄はやっぱり素敵です。
- 元気ですか？また今度部屋に来てください。飲み会をやりましょう。
- 今なぜか海外にいる。念のため国外追放処分になったわけではないと断っておく。元気でやっているだろうか。金髪女性には気をつけてくださいねと言いたい。

乗次由美

- 笑顔がとてもかわいい(先輩に対して失礼)な人です。こよなくヒダカを愛する人でもあります。卒部してからも遊びに来てください。
- もういじめないでください。



新厩舎にて



角堂兄



浅野兄とエオン



乗次姉と北獅号(北里大学にて、左は小谷兄、右は長田兄)



田中兄とトルネード 北日にて、右より川辺と森田兄



小谷兄と北獅号(全日にて)



寺坂兄とイーリアス

左より寺坂兄、寺田姉、中村兄と佐合氏



離札式 札幌駅にて、S S片手に、馬術部賛歌も



長田兄と川崎兄



佳子姉とフライト



パロンと左より角堂兄、井口兄、杉山、中田兄、鷹箸



ドロonz歓迎コンパ

旧部室にて、恒例、スイカの盃でSS



イーリアス離厩式



北彪号離厩式



北優号離厩式



HORSE TREKKING



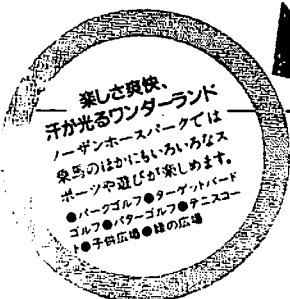
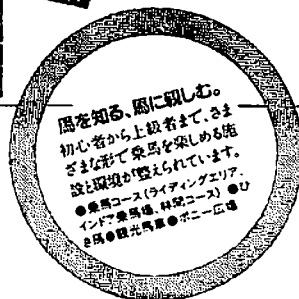
ライディングエリア



馬場



日光乗馬(ひき馬)

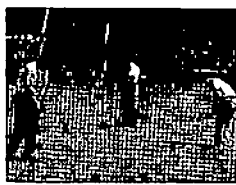


テニス

RECREATION



ライティング



バスターゴルフ

TASTE



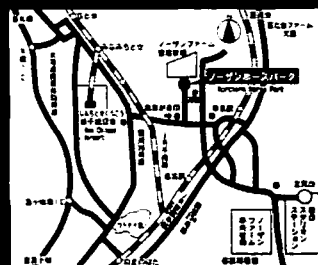
カフェテリア(シャンティ)



売店



テラス



新千歳空港より車で15分 ノーザンホースパーク

〒059-1361 北海道苫小牧市境家114-7
TEL.0144-58-2116 FAX.0144-58-2377
(開園時間(夏期間) 9:00~19:30)

※詳しくはホームページをご覧ください。お電話でもお問い合わせいただけます。

人と、馬と、
自然が出会う空間。



手作りソースの店
COFFEE & RESTAURANT
Firenze
フィレンツェ
北17条西5丁目 三央ビル2F ☎ 726-8880

コンパ予約受付中
ボリューム満点！
コンパ200人OK！

当店誕生日、御利用の方には
カラー写真・シャンペン・粗
品を差し上げます。

 焼鳥 ■ 居酒屋
きよた

札幌市北区北17条西5丁目北向き
TEL 747-7000

創業82年

旗の専門商社
ヤマ レイ
山 禮

 (代) 241-1641

FAX 281-0419 P 駐車場あります 札幌市中央区南1条西7丁目 山禮ビル4F

YAMAWA
お酒と米のことなら

(株) 今 鷺 田 商 店

札幌市豊平区美園3条4丁目(バス停前)
電 話 (代) 821-6248
☎ フリーダイヤル 0120-431045
よいさけとよいこめ

HAIR'S **B L O C K**

札幌市北区北 20 条西 8 丁目

TEL 7 0 7 - 4 3 0 8

酒・米・タバコ・食料品

宝賀商店

札幌市北区北 24 条西 13 丁目

7 1 6 - 8 0 8 6

赤ひげ

で

よくコンパをやります。次のコンパが楽しみだ！

花のことなら

葉花園



厩舎正面

現在、部室前には東京 OB 会の寄付により桜が植樹された。この環境を生かし北大馬術部のいっそうの発展に努力したい。

編集後記

今年の4月に馬場が24条へと移転しました。現役はもちろんOBの方の思い出の詰まった旧厩舎が無くなるのはとても残念なことです。今年度の部報は新厩舎完成の特別号として新厩舎はもちろんのこと旧厩舎についても特集しました。また瀧澤さん、今井さんに寄稿していただきましたので、充実した部報になったと思います。皆様のご協力のおかげですありがとうございました。なお何かご意見がございましたら、北大馬術部までご連絡ください。

平成11年8月発行

発行者 北海道大学馬術部

〒001-0023 札幌市北区北23条西12丁目 北海道大学馬術部厩舎
(011)737-1626

〒060-0817 札幌市北区北17条西7丁目北大体育会内
編集者 部報編集委員

印刷所 北大生協 北大印刷

